



発行 小野友五郎を伝えてゆく会
 事務局 〒309-1626
 茨城県笠間市下市毛222の5
 TEL 0296-72-5104 FAX0296-72-5115
 H P https://tomogorou.com
 Eメール tomo56@eco.ocn.ne.jp

笠間の友五郎から
日本の友五郎へ

- ◆ 小野友五郎伝
- ◆ 友五郎の足跡を訪ねて 深川・日本橋界隈①
- ◆ 事務局日より
- ◆ 編集後記

友五郎 県立歴史館に登場

4-6月 企画展「歴史を紡いだ 茨城の先人」

茨城県立歴史館（水戸市緑町）で4月27日から6月23日まで開館50周年記念企画展「歴史を紡いだ 茨城の先人」が開催されました。元知事で初代館長を務めた岩上二郎のほか日本地図の先駆者長久保赤水、教育者で旧制水戸中学校長も務め、水戸学研究に尽くした菊池謙二郎、そして小野友五郎の4人の足跡や業績が、写真や資料をもとで紹介されました。



友五郎コーナーで展示に見入る来館者



盛況だった今泉副会長の講演会 5月26日

友五郎のコーナーでは、愛用した天球儀（笠間稲荷神社所蔵）、渡米の際に撮影した肖像、編集に携わった測量技術書「量地図説」のほか、伝えてゆく会所有の咸臨丸の模型などが展示されました。5月26日には当会の今泉寛副会長が歴史館講堂で講演し、友五郎の足跡を紹介。会場は130人の聴衆でほぼ埋まり、今泉副会長の話に聞き入っていました。

伝えてゆく会が総会 南先生講話

小野友五郎を伝えてゆく会（杉田捷機会長）の総会が6月14日、かさま歴史交流館井筒屋（笠間市）で開かれました。会員25人が出席。令和5年度の事業報告、決算、本年度の事業、予算が承認されました。

本年度の事業として、3回目となる市内小学生を対象とした小野友五郎新聞コンクールのほか、新たに咸臨丸サミットⅡ4ページに概要Ⅱを開催します。

総会の後、当会顧問で笠間市文化財保護審議会長の南秀利先生が友五郎について講演を行いました。



小野友五郎伝 3

杉田 捷機



日本人のみで初操船

一八五七（安政四）年三月、友五郎ら長崎海軍伝習所の一期生は訓練を終えて、オランダ国王が将軍に献上した幕府所有第一号の蒸気艦観光丸（七八一トン）を操船して江戸に戻ります。日本人のみで蒸気船を操作し航海したのはこれが最初でした。

伝習所の目的は海軍強化とオランダに発注したコルベット艦（咸臨丸・朝陽丸）の基幹要員の教育です。江戸に戻った友五郎は築地に開設された築地海軍操練所の教授方になります。航海術、蒸気学、造船学、西洋数学などを担当する8人の教授で構成され、そのうちの一人、中浜万次郎（ジョン万次郎）は英語を教えました。生徒の大半は旗本、御家人の子弟で、明

治維新で活躍した者も多くおりました。

八月には待ち望んでいたスクリーナー式蒸気コルベット艦ヤーパン号（咸臨丸）が長崎港に到着しました。乗組員の大半は伝習所二期生の教師として派遣された士官などです。それまでの教育担当者は、新教師団に引き継ぎを行い、九月一六日にオランダ商船アムナ・デフナ号で帰国の途に着きました。

翌年五月、オランダに発注して

いた朝陽丸の引き渡しがあり、八月には英国女王からエンペラー号が寄贈され、この時点で幕府は四隻の蒸気艦を所有することになりました。

咸臨丸で米国へ

そのような中、日米修好通商条約の調印のため、批准書交換の使節団が米国に派遣されることになり、外国奉行、新見正興を団長として七人の使節

団が編成されました。一行は米海軍ポーハタン号に乗って、一八六〇（安政七）年一月一八日、築地を出港します。

この使節団派遣で、幕府はポーハタン号の護衛と幕府海軍の実地訓練を兼ねて、日本から咸臨丸を随行させます。咸臨丸は

使節団より一足早く一月一三日に品川を出て、横浜を経由して一九

日午後三時、強風の中、浦賀を出港しました。

日本船初の太平洋横断を成し遂げる咸臨丸には、木村撰津守喜毅を筆頭に艦長の勝麟太郎、教授方の佐々倉桐太郎（浦賀奉行）、浜口興右衛門、測量方の小野友五郎、蒸気方の肥田浜五郎、通弁の中浜万次郎など日本人九六人と米国海軍大尉ジョン・ブルック以下一人の計一〇七人が乗り込みました。乗組員の職種は医師や鼓手、水夫、火焚、大工、鍛冶などでした。積み荷は米一トン、醬油四一四リットル、焼酎一三五リットル、味噌六樽（たる）、漬物六樽、茶三〇キロ、砂糖七樽、かつお節一五〇〇本、梅干し四壺（つぼ）、豚二匹、鶏三〇羽、アヒル二〇羽に上り、そのほか燃料の石炭五〇トン、灯油一八〇リットル、ろうそく一〇〇〇本、半紙七〇〇枚、美濃紙三〇〇枚、茨城産の西の内和紙三〇〇枚、炭二〇〇俵、薪（まき）一三五〇束などが積み込まれたと記録されております。

（つづく）



観光丸の復元船

深川・日本橋界限 ①

井坂 幸雄

数えで25歳となった天保12(1841)年、小野友五郎はその高い能力と人柄を買われ、元締



笠間藩下屋敷付近Ⅱ江東区北砂

手代として江戸詰めを命じられました。赴任地となった笠間藩下屋敷は深川の小名木川沿いにあり、以後、82歳で亡くなるまで、友五

友五郎の足跡を訪ねて

郎は主に深川や日本橋に住まいを構え、その生涯を江戸、東京で送りました。

笠間藩の下屋敷は現在の江東区北砂2丁目付近にありました。江戸時代嘉永期の古地図を見ると、当該地には牧野左京と屋敷名が記されています。備後守、越中守として寺社奉行や大阪城代を務めた笠間藩の8代藩主牧野貞直のことです。

現在の小名木川沿いには近代的なビルやマンションが立ち並び、両岸には遊歩道が整備され、散歩やジョギングを楽しむ憩いの場ともなっています。笠間藩下屋敷があった付近には大きな病院などが建っています。

小名木川は行徳(千葉県)の塩を江戸に運ぶため、徳川家康の命で開削された運河です。全長4640メートル。隅田川と旧中



中浜万次郎宅跡の掲示＝北砂小学校

川を東西一直線で結び、江戸時代から明治にかけて、塩ばかりでなく多くの物資や人が行き交う重要航路として発展しました。川を挟んで土地開発が進められ、各藩の下屋敷などが造られました。

笠間藩下屋敷の近接地には土佐藩の下屋敷があり、友五郎とも関係の深い中浜万次郎が明治初期、開成学校(東京大学の前身)の教授などを務めながら、11年間にわたりこの屋敷で暮らしています。現在は北砂小学校となっており、

万次郎宅だったことを示す掲示があります。

出世を遂げた友五郎はやがて下屋敷を出て、やはり小名木川沿いの八右衛門新田の扇橋(江東区扇橋)付近に屋敷を構えました。江東区の調査資料によると、近くの海辺大工町(江東区清澄、白河付近)にも屋敷地を得ており、ここで借家経営をしていたのではないかと、とみています。当時、深川には武士が地主として経営する長屋があったそうです。



マンションが並ぶ小名木川扇橋付近

咸臨丸事件と
清水次郎長

石崎 文夫

清水次郎長と言えば、江戸時代幕末の東海道一の大俠客です。その次郎長が咸臨丸と繋がりがあったことは、皆さんご存じだったでしょうか。



清水次郎長

明治元年（一八六八年）九月一八日、咸臨丸は江戸から奥羽へ向かう途中暴風雨に遭い、下田港を経て修理のため清水港へ入港しました。新政府軍に攻撃され、乗組員は切り殺され海に投げ落とされました。港内は腐乱死体で異臭が漂い、ひどい光景に町民は悩まされたそうです。しかし、賊軍である咸臨丸の乗組員（死体）に触れた者は反逆者として処罰すると、官軍の高札が立ったため誰も手を出せませんでした。

そこで清水次郎長は夜中に一家で遺体を回収して無縁墓地に埋葬しました。9月末頃、役所から出

頭命令が出て取り調べを受けた際、遺体回収の理由を聞かれた次郎長は「人は死ねば皆仏、仏に官軍も賊軍もない」と厳罰を恐れることなく、人の道として当たり前のことをしただけと主張しました。後にこれを聞いた幕臣で江戸城無血開城の立役者である山岡鉄舟（後に茨城県初代知事）は深く感銘し、次郎長が造った乗組員のお墓に「壮士墓」を揮毫して与えました。その壮士墓を地域住民が現代まで守り伝えていきます。

お墓は、次郎長生家と巴川を挟んで対岸にあり、東海道随一の名刹清見寺（せいけんじ）敷地内には「食人之食者死人之事」と書かれた咸臨丸殉難者の碑があります。咸臨丸は一八七一年、開拓民を乗せて航海中に北海道木古内町のサラキ岬で座礁し沈没しました。咸臨丸に深く関わった両地にはぜひ訪ねてみたいところです。

（当会事務局長）

事務局だより

小野友五郎を伝えてゆく会では、咸臨丸子孫の会（藤本増夫会長）と共催で10月に笠間市内で「咸臨丸サミット」を開催しようとして、現在、準備を進めています。

日本船として初めて太平洋横断を成し遂げた咸臨丸は、艦長の勝海舟をはじめ小野友五郎、福沢諭吉、ジョン万次郎など日本の近代化に大きな足跡を残す人材が乗り込んでいました。サミットでは作家の鳴海風さんの基調講演、咸臨丸乗組員の子孫らによるシンポジウムなどを予定しています。

まだ計画段階ではありますが、笠間市などの協力を得ながら、笠間稲荷神社を会場に、楽しく意義あるサミットになるよう、杉田会長を先頭に役員、事務局で計画の具体化を進めているところです。サミット開催が正式に確定すれば、会員の皆様にあらためてお知らせします。

編集後記

歴史を紡いでいくには記録と共に語り部が必要です。笠間の小野友五郎にとつて、今その両輪となっていたに違いないのが当会顧問の南秀利先生と副会長の今泉寛先生です。南先生は当会総会のほか2月に笠間ふれあい大学、6月には国会議員の勉強会に招かれ友五郎に關して東京で講演。今泉先生は5月の歴史館に続いて、7月には井筒屋で講演します。「友五郎褒賞」を贈りたいところです。（井）

会員募集中

本会の趣旨にご賛同くださいます個人、法人及び団体の皆様のご入会をお待ちしています。

下記アドレスまたはQRコードより、ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。

<https://tomogorou.com>